

平成19年度調査研究「読解力を育成する教科指導」

本調査研究における「読解力」のとらえ方

小学校国語科

国語科では、「読解力」を「話を聞いたり、文章を読み取ったりしたことを基にして、自分で考え、自分の言葉で表現すること。」ととらえ、読み取るだけでなく、きちんと自分の言葉で表現するまでの、一連の過程そのものを「読解力」と考えた。

指導のねらい

ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること

読む力を高めるためには、クリティカル・リーディングと言われるような、自分の知識や経験と関連付けて建設的に批判するような読みを充実させる必要がある。

イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること

単に読んで理解するだけでなく、テキストを利用して自分の考えを書くことが求められる。

ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること

文学的文章だけでなく、幅広いジャンルの本に親しむこと。また、授業の中で、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実することが求められる。

調査研究の手立てと実践事例

1 2年「ようすを考えて読もう 『お手紙』」

○登場人物の会話文を色分けし、様子をとらえやすくする工夫。

○自分の解釈を明確にするための、「何が」「どうして」などの言葉の補足。

2 1年「こえにだして読もう 『くじらぐも』」

○文章からどのようなことを想像したのかワークシートへ書き込み。

○自分の考えを表現することを苦手とする児童のためヒントワードの作成。

3 4年「すじ道を立てて考えよう 『アーチ橋の仕組み』」

○段落の組み立てに着目した話し合いの導入。

○叙述をもとに、想像したり反論したりしながらの読み取り。

4 6年「表現を味わい、豊かに想像しよう 『やまなし』」

○目的意識や学習の方法を明確にした主体的に読む習慣の確立。

○叙述を基に、情景描写や登場人物の行動から作者の思いを推測して読む力の育成。

☆成果 と ★課題

☆叙述に基づいた、根拠を明確にした読み取り。

★物語だけでなく、様々な文章の読み取りへの応用。

☆人の意見を参考にした、自分の考えの深化。

★考えをもつことから、考えを深め広げることへの発展。

☆キーワードを見つけ、自分の言葉で表現する力の育成。

★「話すこと・聞くこと」「書くこと」との連携と、系統的指導方法の確立。

☆読むための方法や手がかりの理解と、自分の考えの明確化。

★音読などの時間の確保と、何でも自由に言える雰囲気のできあがり。

国 語

1 はじめに

「文章の内容と資料の情報とを関係付けて正しく読み取ること。」「二つの文章の共通点を評価し、自分の考えをまとめること。」(読むこと)この2点は、いずれも平成19年10月25日に公表された全国学力調査の小学校国語の課題として示されたものである。

しかし、この課題は2003年に実施されたPISA調査の読解力の問題の読解プロセスの3つの観点として取り上げられたうちの、「書かれた情報から推論して意味を理解する『テキストの解釈』」、「書かれた情報を自らの知識や経験に位置付ける『熟考・評価』」という我が国の生徒が苦手とする2つの観点ときれいに重なるものである。また、「自由記述形式」に課題があるということは、PISA調査に引き続き、今回の全国学力調査でも明らかにされたところであり、無解答の児童が約15%にも達する問題も複数存在した。

このような日本の子どもたちの読解力の現状を踏まえ、本調査研究では、どのようにしたら児童生徒の読解力を育成する授業を行うことができるのかを検証しようとしたものである。「読解力」については、PISA調査において定義が示されているが、今回の調査研究では、「読解力」を「話を聞いたり、文章を読み取ったりしたことを基にして、自分で考え、自分の言葉で表現すること。」ととらえ、読み取るだけでなく、きちんと自分の言葉で表現するまでの、一連の過程そのものを読解力であると考えた。

調査研究を進めるに当たっては、平成17年12月に文部科学省より出された「読解力向上に関する指導資料」を基にしながら検証を行うこととした。

2 調査研究の視点

(1) 7つの改善の方向

「読解力向上に関する指導資料」では、指導のねらいとして「7つの改善の方向」を示している。本調査研究では、その「7つの改善の方向」をもとに、実際の国語の授業の中でどのように取り組んだらよいのかを検証することとした。

7つの改善の方向

指導のねらい
ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること
(ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成
(イ) 評価しながら読む能力の育成
(ウ) 課題に即応した読む能力の育成
イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること
(ア) テキストを利用して自分の考えを表現する力を高めること
(イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成
ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること
(ア) 様々なテキストに対応した読む能力の育成
(イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること

読む力を高めるためには、テキストを肯定的にとらえて理解するだけでなく、テキストの内容や筆者の意図などを解釈することが必要である。さらに、クリティカル・リーディングと言われるような、内容などを理解・評価したり、自分の

知識や経験と関連付けて、建設的に批判するような読みを充実することが必要である。

(ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

目的に応じてテキストの意味や構成を理解したり、表現の細部が全体にどのような役割を果たしているのかなど、筆者の表現意図を解釈したりする力を育成する。

(イ) 評価しながら読む能力の育成

与えられたテキストについて、主張の信頼性や客観性、論理的な思考の確かさなど、様々な幅広い観点から評価しながら読む能力を育成する。

(ウ) 課題に即応した読む能力の育成

短時間で分析的な読みを行い、相手を明確に意識し相手に訴えかける表現や発表を行うなどの課題に即応することのできる読みの能力を育成する。

イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること

読解に当たって、単に読んで理解するだけでなく、テキストを利用して自分の考えを書くことが求められる。

(ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

述べられている事柄を相互に関連付けて解釈したり、それらを総合して自分の考えや生活経験と結びつけて考えをまとめ、表現したりする能力を育成する。

(イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成

取り出した知識や情報の中から、必要かつ重要な本質的なことと、枝葉末節的なこととを区別する能力を育成する。

ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること

読むことについては、幅広い範疇の本を読むことが求められる。また、書くことについては、自分の経験や心情を書くだけでなく、目的や条件を明確にして自分なりの考えを述べたり、論理的な文章に対する自分なりの意見を書いたりする機会を意図的に作ることが大切である。

(ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成

幅広い範疇の読み物を読む読書活動の推進が求められる。また、色々な図を読む能力や図を解釈する能力は、学校教育全体、日常生活、社会生活を送るうえで重要である。

(イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

読んだことと関連付けて、自分の感じたことや考えたことを簡潔に分かりやすく表現する能力を育成する。

本調査研究で取り組んだ4つの検証では、授業の中での指導において、上記の「7つの改善の方向」のどれに該当するのかを、ア（ア）～ウ（イ）というようにして、指導のねらいのどこに該当するのかを、その都度示しながら学習指導案を作成することとした。